

校訓	自分を育て 自分を生かす 社会を明るく	令和2年度 学校だより 「天の子」 第20号	発行日	令和3年2月22日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の志・判断で自ら責任をもつ行動する態度を育てる～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【恩送り】

『恩』とは、「めぐみ」や「いつくしみ」のことです。『恩送り』とは、誰かから受けた恩を直接、その人に返すのではなく、別の人に送り、その送られた人がさらに別の人に恩を渡すという意味です。こうした『恩』が世の中をぐるぐる回っていくということです。人は皆、様々な人から多くの恩を受けて暮らしています。



自分が受けている数々の恩に気づいて、それをしっかりと感謝の心に刻み、周りの人たちに送り、恩を広げていく。そのような恩の広がりが過ごしやすい豊かな学校生活や社会を生み出す原動力になります。

一方、「恩送り」と同様の言葉に、「情けは人の為ならず」というものがあります。

「情けは人の為ならず」とは、情け（＝親切）は、いずれは巡り巡って（他でもない）自分に良いことが返ってくるという意味です。だから、人に対して、親切にしておいた方が良いということです。

江戸時代の儒学者、貝原益軒（かいばらえきけん）が『大和俗訓（やまとぞっくん）』で、恩を施したものはその行為は忘れ、逆に恵みを受けた場合は、その恩を忘れず、必ず報いるよう努めるべきであると記しています。

恩に報いなければならないとは、誰一人として人の恩なくしては生きていけないからで、その恩に応えることによって、人と人との絆が生まれるということです。

3年生は、義務教育を終える今まで育ててくれた家族にまず感謝してもらいたいと思います。そして、3年間ともに頑張り、時には笑い、涙を流して支え合った友だちや先生方に感謝して、次はその感謝や恩を多くの人に広めてください。そのことが恩送りにつながっていくと思います。

【渋沢栄一氏】

2024 年から新1万円札に描かれる渋沢栄一氏を知っていますか。渋沢氏は「日本資本主義の父」と言われています。明治から大正にかけて活躍した実業家で、設立や運営などで育てた企業が約500、教育や社会公共事業などが約600と言われています。超人的な実績からは想像しがたいのですが、20代前半までは埼玉県農村生まれの無名の青年であったようです。



NHK大河ドラマ「晴天を衝（つ）け」では、若い時に実業家人生の原点を見いだされ、挫折を繰り返しながら「忠恕（ちゅうじょ）」（真心と思いやり）の精神を追求し続けた姿が描かれます。渋沢氏は、農民から尊王攘夷で武士になり、幕府を倒そうとしましたが、徳川慶喜の家臣になり幕府に入りました。幕府が倒れた後は新政府にスカウトされ、その後は実業家に転身されました。大河ドラマや書物などを通して、どのように成長されたのかを知り、自らの生き方を考えるヒントになればと思います。

【挨拶（あいさつ）】

笑福亭鶴瓶さんの挨拶についてとても興味深い話があります。『「おはよう」「元気ですか」の挨拶は、ほとんど意味のない言葉です。ただ、挨拶はお互いの境涯を気遣い合うというスタンスでいる合図として挨拶があると思います。』と言われていました。



私は毎朝、校門で子どもたちの登校している様子を見ながら、「おはよう」と挨拶をしています。子どもたちから、「校長先生、おはようございます」と挨拶をされれば、どんなに寒くても、暑くても一日がとても清々しい気持ちになります。みなさんも同じだと思います。家庭や学校において、家族や友だち、先生等と爽やかな挨拶を交わせば、みなさんも一日が清々しい気持ちになれるですね。

その気持ちのよい一日を7回繰り返せば、気持ちのよい一週間になります。また、それを4回繰り返せば、気持ちのよい一ヶ月になります。その繰り返しがよい人生を送ることにつながると思います。

【面接練習】

校長室で多くの3年生対象に面接練習を実施しました。そこで、志望理由や将来の夢、最近の心に残ったニュース、SDGs（持続可能な開発目標）、改正民法、新型コロナウイルスのワクチン接種等について、子どもたちの考えを聞きました。3年生の先生方の日頃の指導の甲斐もあり、全員がしっかりと考え、自信を持って、力強く応えてくれました。そして、最後に全員に共通して座右の銘を聞きました。「初心忘るべからず」「継続は力なり」「凡事徹底」「塵も積もれば山となる」「昨日の自分を超越する」等を述べ、理由も加えて回答してくれました。3年生は自分の進路に希望を抱かせながら真剣に将来を見据えて回答してくれ、成長した姿に頼もしさを感じるとともに後輩のよき手本になると大変嬉しく、誇らしく思いました。



【宇宙飛行士 古川聡さん】

宇宙飛行士の古川聡さんは、国際宇宙ステーションの長期滞在ミッションのためにNASAで訓練を受けたとき、宇宙船や宇宙ステーションでは、気づいたことはどんなことでも発言するように徹底的に教え込まれたそうです。なぜなら、宇宙という特殊な空間では、少しの小さなミスでも人命にかかわる大きな事態を引き起こす可能性があるからです。また、物事を多面的に捉え、観察する力も養わなければなりません。今後、国際化社会を生きていくためには、論理的思考力（考える力）が重要であり、自分の考えや意見を論理的に述べて問題を解決していく力が求められます。また、相手にわかりやすく論理的に伝えるためには語彙力の育成も重要です。先程、書かせていただきました面接練習でも、しっかりと自分の意見や考えを論理的に話していくためには、授業での対話的な学習や地域など多くの世代の違う大人の方々との交流・会話、多くの書物等で自分を高めていきましょう。

